様式第１号（第１０条関係）

2024 年度業務実績報告書

提出日　2025 年　1 月 16 日

１．職名・氏名　　教授　廣瀬弘毅

２．学位　　学位　修士，専門分野　経済学，授与機関　京都大学，授与年月　1992 年 3 月

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 経済政策（4 単位　毎年開講）　2 年生
②内容・ねらい（自由記述） 経済政策　理論と現実との関連を理解させる。そのため，ミクロ経済学，マクロ経済学の復習を交えながら，それらの理論が生まれてきた社会的背景についても，時間を割いて論じている。と同時に，できるだけ実際のデータを読み解くことを念頭に講義を展開した。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 講義用に，図を用いるところではパワーポイントを利用して，理解を促進している。 また，コース制のデータ利活用コース対象科目となっているので，経済現象に関わる公表データについての理解及び活用が可能となるように，データ検索の方法等についても説明を加えている。産業連関分析についてのごく初歩的な説明も加えている。 今年度は，期末試験の解答方法に工夫をさせるため，模式図を中心に，必要事項を書き込むようなスタイルにした。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 産業組織論（2 単位　隔年開講）　2 年生
②内容・ねらい（自由記述） 応用ミクロ経済学なので，理論の復習をしてから始めている。そうすることで，理論が現実の産業の現象をうまく説明できることを理解させたい。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 理論を理解できるように，分かりやすくパワーポイント等を用いた教材を毎回作成している。その上で，できるだけ豊富な事例を紹介することも心がけた。（乗用車に関する各社のラインナップ，清涼飲料水やビール，新聞の価格等の実際のデータを紹介した。） 加えて，12 月には独占禁止政策に関する現実を知ってもらうために，公正取引委員会からゲスト講師を迎えた特別講義も実施した。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 演習Ｉ（４単位）　３年生
②　内容・ねらい（自由記述） 主に２つの目標を考えている。最近の学生は理論を敬遠する傾向にある。そこで，まず第一に前期ではあえてマクロ経済理論とミクロ経済理論の両方を復習させている。前期はミクロ理論及びマクロ理論の復習を行っているが，単なる復習ではなく，現実と理論のリンクを意識させている。後期には他大学との対抗ゼミを本学で実施した。おそらく学生には得がたい経験となったと思われる。

12 月には，学内の smap 合同ゼミナール大会（スマコン）にも出場した。限られた時間での準備であったが，それなりの成果があったと思う。特に，質疑応答に関しては，うまく対応できていた。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

学生の自主的な運営力を涵養するために，できるだけ準備段階では口を挟まないようにしている。しかし，全く放任というのではなく，要所で学生自身に立ち止まらせ，自らの行動を振り返られるように，区切りをもうけている。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等

演習Ⅱ　4 年生

②　内容・ねらい（自由記述）

4 年生の前期は，就職活動で忙しいため，3 年生までのように担当を事前に決めて，報告させるスタイルは難しい。そこで，出席可能な学生に対して，新聞等から興味を持ったものについて，簡単なレジュメを作成させ，議論の種としている。

後期では，卒業論文の作成のため，随時進行状況を報告させている。履修する学生に，卒論を書くことを原則としているので，全員が執筆中である。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

さまざまなネタをもとに議論させることで，就職活動中の「グループ・ディスカッション」への心理的障壁を引き下げると同時に，耳学問的に知識の豊富かを計っている。

卒業指導は，個人単位が中心となる。ZOOM と対面を使い分けて行うことが出来た。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等

基礎演習　２年生

②　内容・ねらい（自由記述）

2 年生の段階で，あえて「経済学とはどのような学問か」を考えさせるような教材を選択して，報告させている。この目的は，内容もさることながら，これから本格的に専門教育を履修するに当たって，「経済学」という学問体系に対してイメージをわかせると同時に，レジュメの作成，報告の作法など技術の習得も目的としている。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

残念ながら，現在のカリキュラム体系ではメタレベルでの経済学を学ぶ機会は皆無に等しい。そこで，簡単ではあるが経済学の入門書では古典に類する新書を教材に選んでいる。具体的には大塚久雄の『社会科学における人間』等を選ぶことにより，幅広い視野を習得できるように配慮しているつもりである。とはいえ，最近の学生の「社会への関心」を惹くのは難しい。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等

経済学特講 C・経営学特講 C「地方行政のリアル」　2 年生

②　内容・ねらい（自由記述）

今年度から始まった講義である。コース制のフィールドワークコース対象科目で，地方自治体の実際の姿を理解するために開講した。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

この講義は，座学と実践を組み合わせるようにしている。

具体的には，今年度協力を依頼した池田町と永平寺町について，学生自身が下調べを最初に

させた。その過程で，さまざまな環境に置かれている自治体が抱えていると問題点について，どのようなものが考えられるのかをフリーディスカッション形式で議論させた。その過程で，人口や産業構成など，自治体の課題について分析する際に，どういったデータが必要となるのかを体験してもらった。その後，事前に池田町と永平寺町それぞれの自治体からもらっていたいくつかの「課題」から学生がチームを作って，それに対して学生目線での回答を作成し，最終的には両町の関係者の前でプレゼンするというスタイルを取った。

これらのグループワークを有効に機能させるために，夏休み集中講義とした。実際には，授業時間をはみ出して作業しなければならなかったが，学生自身のモチベーションは概ね高かったと考えている。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
経済学（2 単位毎年開講）　1 年生※一般教育科目
担当コマ数：1 コマ

②　内容・ねらい（自由記述）

大学に入って間もない学生に向けての講義なので，経済学入門を意識した。特に自分が担当した部分は，4 コマ分ある「政策志向の経済学」のうちの一つであり，またその最初であったので，ミクロ経済学とマクロ経済学について簡潔に説明をした上で，それがどのように政策立案や遂行に関わっているのかについてパワーポイントを用いつつ，説明した。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

社会人も含め，初学者に限らず経済学に接する機会が少ない人は，案外「経済活動」とは何かを正しく定義づけることが難しいようだ。そこで，多少抽象的であっても，経済学の本質についての説明から入ることにした。そうすることで，2 年生から先で学ぶ経済学について，ある程度の視野を持てるように心がけている。

また，説明時には経済学部のカリキュラムとの連携を意識し，「こういった問題については，「〇〇論」で学ぶことになります」と言うような見取り図も提供したつもりた。
（なお，自分が担当した回の前の講義の資料を見て，重複を避けるようにした。）

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
経済理論　大学院博士前期課程

②　内容・ねらい（自由記述）
社会人の大学院生が多いことを踏まえ，ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学ぶと同時に，経済学特有の考え方やアプローチ法（方法論）についての理解を深めるようにしている。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
経済系の学部で学んだ経験がない社会人院生に対して，経済理論と方法論を学ばせるのは容易ではない。そこで，自分でパワーポイントを使って分かりやすい教材を作成し，グラフィカルな理解が出来るように工夫した。また，座学的な一方通行的な講義では，理解が定着しないので，各自に（それぞれの社会的背景を念頭に）現実と理論との関わりについて，報告させるなど，双方向の授業運営を工夫した。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
専攻演習Ⅱ　大学院博士前期課程

②　内容・ねらい（自由記述） 修士論文の作成のための実践的な授業である。 体裁はもちろん論文の構成等についても指導した。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 受講生が大変優秀であったので，毎回関連する周辺分野での新たな論文のテーマ探しなども行えた。
(2)非常勤講師担当科目
(3)その他の教育活動
内容

４．研究業績

(1)研究業績の公表
①論文
②著書 ・参考書
③学会報告等 近現代経済学史研究会（2024 年 3 月 23 日） 「シカゴ学派」について報告 経済学史学会（2024 年 5 月 25 日） 服部報告のコメント及び司会
④その他の公表実績 『2024 ズームアップ現代社会資料』実教出版（高校生用資料集）一部執筆　2024 年発行 『2024 新政治・経済資料三訂版』実教出版（高校生用資料集）一部執筆　2024 年発行
(2)学会活動等
学会での役職など　（学会名） 地域公共政策学会 理事 経済学史学会　学会賞選考委員
学会・分科会の開催運営　（担当学会（大会）名（開催年月日），開催場所）
(3)研究会活動等
①その他の研究活動参加　（参加研究会名，調査活動名（期間）） 経済学方法論フォーラム（代表：関西学院大学久保先生，関西大学中澤先生）年 2 回
②その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
(5)特許出願

５．地域・社会貢献

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会　（それぞれの名称，業務内容，担当期間） 福井地方最低賃金審議会（現職） 福井県景気動向指数検討委員会（現職） 大野市都市計画審議会（現職） 福井市都市計画審議会（現職）（マスタープラン改定の専門委員も兼任）
②国・地方公共団体等の調査受託等　（それぞれの名称，業務内容，活動期間）
③（公益性の強い）NPO･NGO 法人への参加　（それぞれの名称と活動内容，活動期間）
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動　（企業名，活動内容，活動期間）
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 （事業名称及び主催・共催者名，活動内容，活動期間）
⑥その他　（名称，活動場所，活動期間） 福井県総務部政策統計課　統計分析グループとの間での毎年（不定期もあり）な意見交換を行っている。産業連関分析や県民経済計算についての研究など。なお，表にはなっていないが，不定期に採用指数の変更検討など何度か打ち合わせが行っている。

(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
①公開講座・オープンカレッジの開講　（タイトル名，開催場所，開催日時） オープンカレッジ（WEB 版）
②社会人・高校生向けの講座　（タイトル名，開催場所，開催日時） 「高校生のための経済学入門」（School of Liberal Arts）2024 年 7 月 13 日 （意欲ある生徒に向けた希望制）高校生に向けた社会科学の入門講義シリーズの一つを担当した。本学の根多先生の法学入門と合わせ，それなりに関心を持ってもらえたのではないかと考えている。2 年ぶりの担当であったが，今回は「社会の調和」がどのような仕組みでもたらされるのかということをテーマの中心においた。
②社会人・高校生向けの講座　（タイトル名，開催場所，開催日時） 「福井企業価値共創ラボ」2024 年 12 月 13 日 共創ラボに参加している社会人の人への講義を 1 コマ分担当した。 参加者のうち 1 名が経済学部出身だったが，それ以外の人は別の学問分野にルーツがある人たちであった。そこで，経済学について，語源から読み解き，（社会人の人は往々にして経済理論があまり役に立っていないと考えがちであるので）経済学がどのような特徴をもった学問であるかについて，理解が進むようにした。
③その他　（名称，活動場所，活動期間）

(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）
（活動内容，主たる活動場所，活動期間）

６．大学運営への参画

(1)役職（副学長，部局長，学科長）
（職名，期間）
(2)委員会・チーム活動
（名称，期間） FD 部会長
(3)学内行事への参加
（行事名，参加日時）
(4)その他，自発的活動など
（活動名，活動内容，活動期間）